

1. 事業名（事業実施期間）	エルサルバドル国立女性病院における科学的根拠に基づいた人間的出産プロジェクト
2. 事業実施団体名	国立大学法人 東京大学
3. ターゲットグループ	直接的受益者：エルサルバドル国立女性病院等の医療従事者：約 80 名以上 間接的受益者：国立女性病院で出産する女性：約 11,000 名以上／年
プロジェクト要約	指標
上位目標 エルサルバドル国の妊産褥婦と新生児の健康状態が改善される。	
プロジェクト目標 エルサルバドル国立女性病院における妊産褥婦・新生児医療サービスが向上する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 妊産褥婦・新生児医療・ケアの質が向上する。 2 人間的な対応によるケアを受ける妊産褥婦・新生児が増える。 3 エルサルバドル国立女性病院（以下、国立女性病院）とその他の国立病院を利用する妊産褥婦の満足度が上がる。
アウトプット 1. 国立女性病院の医療従事者の科学的根拠に基づいた出産の生理学的プロセスに関する知識が強化される。	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 科学的根拠に基づいた出産の生理学的プロセスを促進する産科医療・ケアについて知識を獲得する医療従事者の数が増加する。 1-2 科学的根拠に基づいた出産に関する科学的根拠に基づいた WHO ガイドライン、Cara in Normal Birth に準ずる医療従事者の数が増加する。
2. 国立女性病院において、妊産褥婦・新生児への人間的なケアが、標準的ケアとして提供される。	<ol style="list-style-type: none"> 2-1 自然な出産経過と産後の経過を理解する妊産褥婦が増える。 2-2 自身の出産経過やケアの方針を決めることに積極的に関わる妊産褥婦が増える。 2-3 自然で自発的な出産経過を体験をする産婦が増える。 2-4 温かみがあり、質が高く、安全な環境でケアを受ける妊産褥婦と新生児が増える。 2-5 WHO の勧告と照らし合わせて、「明らかに有害だったり効果がないのでやめるべき」とされる産科医療・ケアを受ける女性の割合が減少する。
3. 妊産婦の出産満足度と幸福感の向上のために必要なプロセスや技術が、標準的な人間的出産のケア・モデルとして、工国内の他施設へ波及する。	<ol style="list-style-type: none"> 3-1 国立女性病院の人間的なケアのセミナーに参加する他地域の医療従事者が増加する。 3-2 妊産褥婦・新生児への人間的な対応を行う工国内の医療施設数が増加する。 3-3 人間的な出産ケアの重要性を理解し、人間的出産の国内波及にコミットメントできる保健省や工国立女性病院の幹部の数が増加する。 3-4 国内の人間的出産を促進するために開発された教育を配布され、使用する施設数が増加する。

活動

1 国立女性病院の医療従事者の科学的根拠に基づいた出産の生理学的プロセスに関する知識が強化される。

- 1-1 日本人専門家が、国立女性病院の医療従事者を対象に、低リスク女性へ提供する科学的根拠に基づいた産科医療・ケアに関するセミナーを行う。セミナーを通じて獲得した知識は、ベースライン調査、中間評価、終了時評価で評価される。
- 1-2 国立女性病院の医療従事者が、国立女性病院で提供されている産科医療・ケアの実態を、科学的根拠により推奨されている産科医療・ケアとの比較を通じて把握する。
- 1-3 国立女性病院の医療従事者が、ブラジルで実施されるトレーニング・コースに参加し、科学的根拠に基づいた産科医療の理論について学ぶ。
- 1-4 ブラジルでの研修を受けた医療従事者は、科学的根拠に基づいた妊産褥婦・新生児へのケアを国立女性病院に適合化させ、On the Job Training (以下、OJT) を通じて、国立女性病院の医療従事者に伝えていく。
- 1-5 ブラジル人および日本人専門家は、科学的根拠に基づいたケアの普及を目的に、国立女性病院で実施されるプロジェクト活動を評価する。
- 1-6 国立女性病院の医療従事者と日本人専門家は、ベースライン調査、中間評価、終了時評価を通じて、効果的かつ実現可能な形で人間的出産ケアのガイドラインを適応するための、堅実で現実的なデータベースを獲得する。

2 国立女性病院において、妊産褥婦・新生児への人間的なケアが、標準的ケアとして提供される。

- 2-1 国立女性病院の医療従事者が、ブラジルでのトレーニング・コースに参加し、そこで実施されている妊産褥婦・新生児への人間的ケアの実践について学ぶ。
- 2-2 国立女性病院の医療従事者が、国内トップ・レファラルの専門病院として期待される役割と需要を考慮しながら、国立女性病院独自の人間的な出産の概念を明確に述べられるようトレーニングする。
- 2-3 国立女性病院の医療従事者が、低リスク女性に対するケアとして、人間的ケアが導入されるためのアクションプラン・研修計画・モニタリング計画を作成する。
- 2-4 国立女性病院の医療従事者と日本人専門家が、人間的出産プロジェクトの進捗を、アクションプランに沿って定期的にモニタリングする。
- 2-5 国立女性病院の医療従事者と日本人専門家が、妊産褥婦・新生児への人間的ケアを実践するための資機材設置等を通じて、分娩室の環境を整備する。
- 2-6 国立女性病院のブラジルの研修参加者が主体となり、臨床研修生を対象に、妊産褥婦・新生児への人間的なケアに関するワークショップを行う。ワークショップは、産科領域の解剖学的モデル（産科シュミレーション人体モデル）を用いながら実施する。

3 妊産婦の出産満足度と幸福感の向上のために必要なプロセスや技術が、標準的な人間的出産のケア・モデルとして、工国内の他施設へ波及する。

- 3-1 保健省は、その他の国立病院の医療従事者に人間的出産に関するトレーニングを実施する。国立女性病院は、場所や人的資源の条件が合えば、供与された解剖学的モデル（産科シュミレーション人体モデル）を、事前に調整のうえで、保健省に貸し出す。
- 3-2 国立女性病院のブラジルの研修参加者は、日本人専門家の技術的支援を受けながら、他地域の国立病院の医療従事者を対象に、国立女性病院でのインターンシップの機会を提供する
- 3-3 既存の保健省ガイドライン、「産婦人科臨床ガイドライン」に現在人間的出産の概念が含まれていないため、日本人専門家は、プロジェクト進捗に合わせ、ガイドライン改定時には追加してもらえよう、検討を促す。
- 3-4 国立女性病院等の医療従事者と保健省は、プロジェクト進捗を評価するため、日本人専門家と年に一度集まる。
- 3-5 日本人専門家は、保健省と PAHO の承認を得て、出産に関連した WHO ガイドライン（西語版）を公的出版するほか、教育教材を開発し、国立女性病院等の施設に配布する。
- 3-6 日本人専門家と保健省 C/P は、PAHO と連携しながら、出産に関連した WHO ガイドライン（西語版）の全国普及のため、ガイドライン出版記念イベントを実施する。

◆上位目標：プロジェクトを実施することによって期待される長期的な効果。プロジェクトの直接的な効果が継続・あるいはさらに発展することにより、どのような状況を実現したいかを記載。

◆プロジェクト目標：プロジェクト終了時にプロジェクト実施によって達成が期待される Outcome、すなわちターゲットグループや対象社会に対する直接的な効果・変化。

◆アウトプット：プロジェクト目標達成のためにプロジェクトが生み出すべき財やサービス。プロジェクト目標はターゲットグループをはじめとする受益者側に対するプラスの変化を表しているのに対し、アウトプットはプロジェクトを実施する側が産出する事柄である。